

ホームルーム活動を 特別活動の 中核として考える

年間指導計画までまとめたら、次は行事の事前・事後指導を含むHR活動の指導案の作成です。特別活動ではこのHR活動を、補助的な役割ではなく、中核に据えていきます。

「生徒が自分で決める」という学習プロセスが特別活動の肝

HR活動は、年間35単位時間以上、クラス単位やホームルーム単位（※欄外参照）で行うと規定されている。これを踏まえて長田先生は問いかける。

「全校や学年集団での取組はHR活動に入りません。HR活動、35時間以上行っていますか？ していないと未履修の問題になりますよ（笑）」

冗談めかしながらもこの点を強調するのは、HR活動こそが特別活動の中核となるべきものだからだ。

「クラスの問題を議論するときだけで

なく、学校行事で何をやるか決めるときも、生徒会活動の役員や委員を選ぶときも、HR活動の話し合いが土台となります。生徒が自分たちの課題について『合意形成』や『意思決定』を行うときの中心の場となるのがHR活動であり、そうした「生徒が自分で決める」というプロセスを通して、実社会でも生きる資質・能力を育むのが、特別活動の学びの肝なのです」

「行事のため」ではなく「行事を使って」HR活動を

ではHR活動をどう展開すれば、特別活動だからこそ学びうる知識や思考力や人間性——いわゆる資質・能力の三つの柱を育めるだろう。

年間35時間のうち、学校行事に関連する内容に何時間かは割かれるが、ここをただの行事の準備と捉えようと、HR活動は行事の下請けになる。長田先生がポイントにあげるのは、例えば体育祭絡みでHR活動を数時間取るなら、何を指すのか、行事の成功の先にあるゴールまで見据え、一連の活動の題材を設定することだ（図5参照）。つまり「体育祭のためにHR活動を使う」のではなく、「体育祭という生徒が自分事にしてしやすい切迫感ある事象を使って、HR活動を行う」のだ。

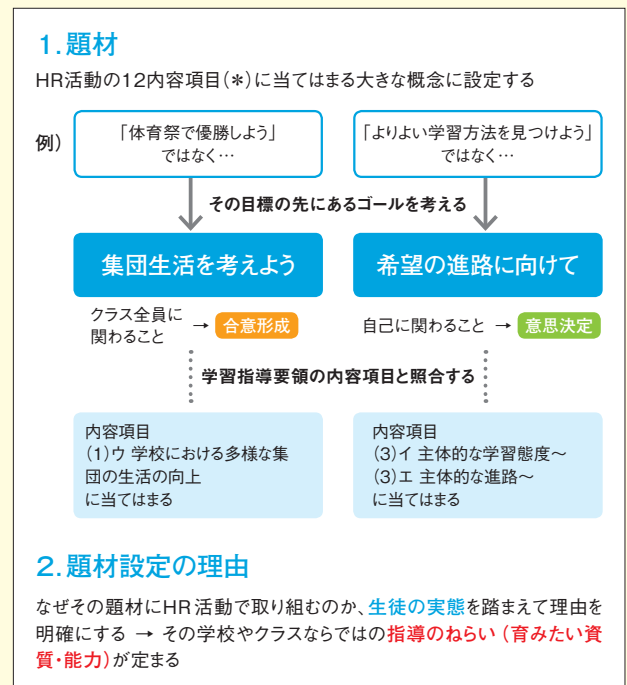
そしてその題材を念頭に置いて、図6のように合意形成や意思決定を行う授業を展開するのだが、この点は次ページ以降で詳しく触れたい。

図6 ホームルーム活動の授業の展開

	合意形成を伴う授業 内容項目(1)※1	意思決定を伴う授業 内容項目(2・3)※1	指導上の留意点
導入・開始	議題の提案と説明 原則生徒が司会	題材の共有と理解 原則教師が促す	生徒が自分事として 捉えることができるか
	切迫感があり クラスの現状に合致	切迫感があり 自分事として捉える	客観的データ（生徒のアンケート等）の提示も有効
展開	クラス全体での 話し合い活動	グループなどの 話し合い活動	集団活動 ※2
	クラス全体での合意。 安易な多数決にならないように。	互いのよさや可能性を 引き出す。一人での活動ばかりでは特別活動ではない。	
	合意形成	意思決定	
まとめ	実践へ（意欲付け）	実践へ（意欲付け）	実践的な活動 ※2
	次の活動へのガイダンスも		

※1 HR活動の12内容項目のこと。8ページ参照。
※2 「集団活動」と「実践的な活動」が特別活動の特質。9ページ参照。

図5 ホームルーム活動の題材の設定



*学習指導要領に記載されたHR活動の12内容項目。8ページ参照。

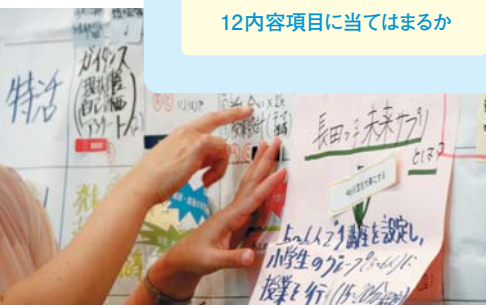
ワークシートで題材とねらいを定める

Check!

題材を設定する

学習指導要領をしっかり把握して、全体計画や年間指導計画に沿って行う活動について、先のゴールまで見据えて題材を設定する。

- 学習指導要領のHR活動の12内容項目に当てはまるか



ダウンロード可

ホームルーム活動指導案
〇〇高等学校 年 組

- 1 題材**
ホームルーム活動内容項目 (1) (2) (3)
アイウエオ:
- 2 題材について**
(1) 生徒の実態

(2) 題材設定の理由
(1)の実態から、
- 3 指導のねらい (育みたい資質・能力)**
○
○
○
- 4 評価の観点 (評価規準)**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

Check!

題材設定の理由を練る

その題材に挑む理由を「生徒がこうで、こんな力を育むため」と自校の実情を踏まえて明確にする。

- 特別活動の三つの視点から生徒の実態を捉えているか

Check!

指導のねらいを定める

「～が身に付いている (～について理解している)」「～ができる (～している)」「～しようとしている」の語尾に落とし込むと、資質・能力の三つの柱に沿ったねらいになる。

この活動のみのねらいと短絡的に考えず、全体計画の目標も踏まえたいよね。



Check!

評価の観点を考える

活動の評価も、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準に沿って行えるよう整理。

HR活動の指導案を作成する

個人としての「意思決定」と 集団としての「合意形成」と 実践

今日のワークは架空の生徒の実態を共有したけど、どの学校でもやるといいよね。教員の課題感や意識をそろえるためにも。



HR活動の指導案作成でもワークシートを活用。沖縄の研修会では、先生たちが4チームに分かれ、12ページの年間指導計画を基に、2チームは「行事（商店街でのリアルインタナシッブ）に向けて合意形成を図るHR活動」の指導案を、もう2チームが「行事（地域の子どもたちへの学習支援）のあとで自己の目標の意思決定をするHR活動」の指導案を作成した。

まずは何を指して一連のHR活動に取り組むのか「題材」を設定。その際は「生徒の実態からどんな資質・能力を育むか」を考えることは言うまでもない。

HR活動の指導案を作成、展開を考えてみる

指導案作成の条件

- 【指導案作成の条件設定】
- 3～4人のチームに分かれて、1または2いずれかの指導案を作成する
 - 1 中心的な学校行事に向けた事前指導として、クイズで何をするか全員で「合意形成」を図るHR活動の指導案
 - 2 中心的な学校行事を終えたあとの事後指導として、生徒が自己の目標の「意思決定」をするHR活動の指導案

Step1、2でまとめた全体計画と年間指導計画に基づき、また、生徒の実態も踏まえながら、生徒にとっての「合意形成」や「意思決定」の場となるHR活動の指導案を作成します。

ワークシートで授業の展開を考える

ダウンロード可

5 指導展開

(1)事前指導

期日	活動の場面	活動内容	指導上の留意点	評価方法

(2)本時の指導

ア 題材(議題)

ホームルーム活動内容項目 (1) (2) (3)
アイユエオ:
関連するホームルーム活動内容項目 (1) (2) (3)
アイユエオ:

イ 本時のねらい (育みたい資質・能力)
○
○
○

ウ 展開

	活動の内容	指導上の留意点 (教師の発問)	評価方法/ 予測される生徒発言
導入・開始			
展開			
まとめ			

(3)事後指導

期日	活動の場面	活動内容	指導上の留意点	評価方法

(4)資料

Check!

事前・事後の指導を考える

取り組む「題材」が1コマのHR活動だけでやりきれないときは、前後のHR活動や朝や放課後を活用することも。

日頃から計画的に思考や議論を促すことが、合意形成や意思決定の質を高めるのかもね。



飛躍したねらいでは授業が空転しそう。生徒から登る階段が見えるようなねらいにしたい。



Check!

本時の題材(議題)ねらいを置く

HR活動を通して、みんなで合意形成を図る「議題」、または意思決定を目指す「題材」を設定。その授業のねらいも明らかにする。

- 題材(議題)は生徒が自分事として捉えられるものか
- ねらいに置く資質・能力は生徒の実態に合うものか

Check!

実践への意欲付け

生徒が合意形成・意思決定したことを振り返り、実践への意欲につながるよう促す。

Check!

本時の導入や展開を考える

合意形成を図る活動では、司会の生徒が議題を提案。意思決定を目指す活動では、原則教師が議題を示し、話し合いを進める。

- 合意形成を、一部の生徒でなくクラス全体でしているか
- 集団で互いのよさや可能性を引き出したうえで意思決定をしているか

生徒による宣言、振り返りシートの記入、廊下への掲示などが考えられるかなあ。

こんな発問や、こんな話し合いの仕方したら、生徒はどう動くかな? その想像力が必要のように思う。

「生徒の現状をよく見てください。よい点や足りない点は、どんな力を育みたいか。その実態を捉える眼鏡に活用してほしいのが『人間関係形成』『社会参画』『自己実現』の特別活動の三つの視点です」

続いて一連のHR活動の中心となる議題や題材、その時間のねらい、授業展開、事前・事後の指導も練る。授業の展開では「生徒が自分事で捉えられるか」が大事だ。

「議題や題材は『クラスの現状に合うか』『切迫感があるか』を吟味してください。例えばHR活動でいきなり『20年後の自分を考える』とやっても、生徒には切迫感がありません。それよりも『体育祭で各自が何に挑むか、どんな力が必要か』は切迫感がある。それを切り口に『体育祭で何ができた?』そのできたことは社会や会社でどう活かす?』とつながったら自然な流れで20年後のことが自分事でできるのでは」

特別活動の特質、「集団活動」と「実践的な活動」を確認することも重要だ。「HRの集団活動は『クラス全体で物事を決める』のが醍醐味です。『合意形成』をする授業なら必ずクラス全体での話し合いを入れます。自己の『意思決定』をする授業なら、終始一人では考えず、小集団で構わないので話し合いを経て決定する過程を入れます。問題は、そうして決めたことを、そのHR活動中に実践まで行うのは難しいこと。だから『実践しようとする意欲付け』が

指導案を基に模擬授業をして意見交換する

事例

1 行事(商店街でのリアルインターンシップ)に向けて合意形成を図るHR活動

題材 自分の得手不得手を見つけ、役割を考えよう
→HR活動の12内容項目の(1)イ

本時の議題 商店街で、クラスで何をやるか


導入 司会の生徒より今日の話合いの流れの説明

展開 ①小集団での話合い活動(得意なものが近い人同士で)
②小集団での話合い活動(得意なものが違う人同士で)
③クラス全体での話合い活動を経て合意形成

まとめ 振り返り後、話し合った内容揭示、実践への意欲付け

Q 「話し合おうと促すだけでは、生徒が戸惑うこともありそうです。生徒の話合いが進まないときはどう支援しますか?」

A 「まずはピリオパトルのように各自が得意なものを宣言してから、やりたいことを付箋に書き出すイメージでした」

 「小集団での話合い活動はワールドカフェもよいかもしれません。ここで大事なことは、クラス全体での話合い活動。安易な多数決にならないよう互いのよさや可能性を生かし合う話合いに導きたいのです」

事例

2 行事(地域の子どもたちへの学習支援)のあとで自己の目標の意思決定をするHR活動

題材 なりたい大人になるために
→HR活動の12内容項目の(2)ア

本時の題材 前期を振り返って(やる気スイッチを押そう)


導入 写真で振り返り(4月から自分はどうのように成長した?)

展開 ①個人による自己評価→ペアで共有
②小集団での話合い活動で相互評価(行事の来校者アンケートも活用)
③個人による意思決定(成長と足りない部分を内省)

まとめ 次の行事や学校生活でがんばることを、生徒が宣言

Q 「直近の中心的な学校行事から振り返るのではなく、4月から上半期全部を振り返ることにしたのはなぜですか?」

A 「これまでの行事につながりをもたせ、年間を通してがんばる目標がある、という意識づけをしたいと考えました」

 「直近と上半期どちらを振り返る場合もありえて、そこはまさに生徒の実態をどう捉え、何を指すかで変わるんです」



「HR活動1時間だけで合意形成できるかな、と思ったのですが、4月から各教科の授業でも話合い活動を行い、思考や議論をする手立ても示していけば、この時期には生徒の成長が見込める、と思い直しました。年間を通して計画的に資質・能力を育む大切さを感じました」

「生徒が合意形成や意思決定をしてくれるよう、支援するツールを教員がもっておく必要性を感じました。話の時系列を気にすることや、逆算して時間配分を考えることなど、大人が何気なくしていることをもっと言語化して示すことに加え、さまざまな思考ツールを私たちも学んでいきたいです」

グループごとに振り返り、全体でシェアした際の先生たちの感想

指導案と模擬授業を振り返る

「現実の政治も合意形成や意思決定に苦戦していることを思うと、HR活動は主権者教育——自分の考えをもって他者と協働しながら社会を形成していく力を育むことにも通じると感じました。HR活動に本気で取り組むことが、社会を変えることにつながるのだと思います」

「指導案づくりのワークシートでは、生徒の動きを想像して授業展開を考えるべきだけど、展開をなぞるだけの授業になると生徒に響かない。より大事なのは指導のねらいで、HR活動でどんな資質・能力を育むのか、その目標を見失わず、状況に応じた授業を行いたいと思いました」



長田先生からのアドバイス /

自校でHR活動の指導案を作るときは

HR 活動は、優れた指導案さえあればうまくいく、というものではありません。年度や学年あるいはクラスが違えば、生徒の実態は異なります。前年度と同じ活動をするにしても、前年度踏襲ではなく、今回の研修のように、生徒をしっかり見取るところから始め、その生徒にどんな資質・能力を育みたいか、そのために最適な授業展開は何か考えてほしいと思います。

展開を考えるときは、ピラミッドチャートやワールドカフェのように、生徒の思考や対話を促すツールを教員がたくさんもち、実践経験も積むほど、目の前の生徒に合った授業を組み立てていけるでしょう。

指導案を作成したら、ポイントだけでも模擬授業をし、振り返りまで行いたい。研修会では、その過程で生徒への配慮不足に気づいたり、特別活動の可能性を実感したりすることができ、またとない機会となった。

指導案に基づいて
模擬授業をして
振り返ってみる

大事。教員の指図ではなく、生徒が本
当に自分たちで合意形成や意思決定
をする、それがまさに実践への意欲付
けになるんですよ。もちろん、一定の期
間において実際に実践できたか振り返
りをさせることも重要です」